

世界遺産元興寺と奈良町歴史散歩

晴天に恵まれた秋の1日、JAUW 奈良支部恒例の秋の行事として上記の会を開催した。奈良支部会員4名、京都支部会員4名、奈良在住賛助会員2名（合計10名）の参加であった。

まず空腹では心もとないということで、ミシュランガイドでグリーンスターと認定された郷土料理で有名な「粟」ならまち店で会食した。奈良の伝統野菜や大和牛などからなるエレガントな会席料理に舌鼓をうち元気になった。その後元興寺の東門へ向かった。そこで当日のガイドをしていただいた奈良まほろばソムリエの会の川村剛さんと合流していざ歴史散歩に入った。

当日のコースは以下の通り盛りだくさんであった。

1. 真言律宗元興寺
2. 庚申堂
3. 元興寺小塔院
4. 元興寺塔跡
5. 御霊神社
6. ならまち格子の家
7. 十輪院

元興寺は平城遷都を機に718年飛鳥から奈良に移設され、名称も法興寺から元興寺へと変えられ、平安時代前期まで南都7大寺の1つとして仏教など各方面で指導的な役割をはたした。盂蘭盆会、灌仏会、文殊会など今も行われている行事はこの寺が起源である。また日本最初の瓦として知られる行基葺きといわれる瓦は、現存の極楽堂や禅堂に使用されているのを見ることができる。智光曼荼羅を残した智光をはじめとして多数の高僧を輩出し、平成10年古都奈良の文化財の一つとして世界文化遺産として登録された。真言律宗元興寺の見学に1時間半くらいかかった。その後、虚空蔵堂（1706年造立）・小塔跡や塔跡へ回り、その道すがら庚申堂、御霊神社、ならまち格子の家を見学し、最後の見学場所である十輪院へと向かった。庚申堂は庚申信仰の中心地であり、厄除けの猿のかわいい姿が今も奈良町界隈の家に飾られている。御霊神社は桓武天皇により800年に創建された。元興寺の南門前で行われていた御霊会が始まりである。今では縁結び、夫婦円満などのご利益があるとされている。ならまち格子の家は明治時代の町屋が再現されており、当時の暮らしぶりが偲ばれる。十輪院については鎌倉時代本堂の石地藏菩薩が「霊験あらたかな地藏」として取り上げられている。本堂の石仏龕（がん）は類を見ない石からなる仏像類で非常に印象的であった。ナチスの迫害から逃げるため、3年間を日本で暮らしたドイツ人建築家ブルーノ・タウトの以下のことばが残されている。

奈良に来たら、まず小規模だが非常に古い簡素優美な十輪院を訪れて静かにその美を
観照し、また近傍の素朴な街路などを心行くまで味わうが良い。

全体にわたり世界遺産にふさわしい静寂と端正な美しさを今に伝えている奈良町での歴史散歩でありました。

（報告者 久留島涼子）

奈良町散策場所

(観光案内リーフレットに散策路を記す)



奈良の伝統野菜や大和牛を使った料理 (粟ならまち店にて)



世界遺産 元興寺



説明をする川村さんと話に耳を傾ける参加者



こうしん
庚申堂



奈良町資料館につるされた庚申さん（身代わり申きる）



虚空蔵堂



元興寺塔跡



御霊神社



十輪院